

目的

1. 広島商船高等専門学校の使命

本校の使命は、教育基本法や学校教育法に基づき「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的」とし、船舶技術者の養成をはじめ流通関連から電子関連等まで広い分野で社会的に通用する高度の専門的知識と技術をもった実践的で創造的な技術者の育成にある。

2. 本校の基本的な教育方針

本校の目的は、教育方針、すなわち教育理念及びそれを実現するための教育目標、として定められている。

教育理念

人間性豊かで、国際的な視野を持ち、技術的創造力のある人材の育成

教育目標

- (1) 人権を尊重し、高い倫理観と強靱な精神力を養う。
- (2) 国際社会に対応できる豊かな視野と感覚を磨く。
- (3) 正確な現状分析をもとに、自ら問題を発見し、解決できる実践的能力を開発する。
- (4) 幅広い教養にもとづき、柔軟な発想と論理的思考ができる創造力を培う。

上記の教育目標の説明は以下のようになっている。

(1) 人権を尊重し、高い倫理観と強靱な精神力を養う。

豊かな教養と高い倫理観を身に付けた者は、物事の判断・決断・実行に際して、優しさと思いやりに満ちた深い考えと、労苦をいとわない積極的な行動ができるようになる。そのためには、心の教育を重視した教養教育が、より重要になってくる。何よりも「生きる力」を身に付けるために、経験や体験を重視するとともに、学生が活発な討議を行い、自己表現できるような教育環境の構築に努めなければならない。また、技術の多様化、社会のグローバル化に伴って、それらに対応できる柔軟な思考力と、それらの重圧に打ち克つ強靱な精神力を育成する。

(2) 国際社会に対応できる豊かな視野と感覚を磨く。

従来から本校は、海洋・船舶に従事する技術者を教育・養成してきた経緯と実績がある。この経験を活かして、今後は、更に国際的視野を持ち、グローバル化社会に通用する人材を育成して、地域社会から国際社会に至るまで、幅広く活動できるようにしなければならない。そのためには、英語でコミュニケーションができる能力やコンピュータ・リテラシーの向上とその教育環境の整備、外国の教育機関との学術交流及び留学生の積極的な受け入れなどの国際交流に努める。

(3) 正確な現状分析をもとに、自ら問題を発見し、解決できる実践的能力を開発する。

学生による創造演習や自由研究などの取り組みを通して、学生自らが問題を発掘し、その解決に至るまでの技術の習得と能力の開発を目指す。特に、学生自身を取り巻く生活環境への問題意識をはじめとして、課外活動や対外試合における活動の在り方、実社会との交流の中から浮かび上がってくる諸問題の認識は重要である。さらに、社会的な体験や教育として、インターンシップやボランティア活動などがあり、これらへの学生の積極的な参加を通して、何が問題であり、何が課題であるかを的確に把握し、適切な対処法を見出すことのできる実践的な能力の育成に努める。

(4) 幅広い教養にもとづき、柔軟な発想と論理的思考ができる創造力を培う。

教育における最も基本的なことは、学生が、どんなことに対しても自由な発想ができるようになることである。特に、想像力や創造力の開発は、最も重要な課題である。さらに、それらは、論理的、技術的に裏付けされることによって、大きな実践的な力となる。例えば、ロボット・コンテストやプログラミング・コンテストなどにおける課題追求や問題解決などは、このような発想の自由さを啓発する重要な機会と捉えている。学生に、幅広い教養と、基礎的かつ基本的学力の着実な定着を図り、その応用への道を開くために、授業、実験実習、卒業研究、課外活動などにおいて創意工夫に努める。

3. 本校の構成

上記の基本的教育方針を実現するために、各学科、各専攻科で教育が実施されている。それらの特徴を以下に簡潔に記述する。

3.1. 学科の特徴

商船学科は、航海コースと機関コースの複合学科である。商船学科としての専門教育の使命は、船舶職員の養成である。船舶職員は、1978年締結のSTCW条約で定められた、船員に要求される知識・技術レベルに対応している必要がある。さらに、航海コースとしては「物流管理技術者」の育成、または機関コースとしては「エネルギープラントに従事する技術者」の育成である。

電子制御工学科では、「メカトロニクス技術者を育成する」ことである。近年の技術の進展に対応でき、「ものづくり」という実践的技術を基礎とした技術力や創造力を持った技術者を育成するために、電子、制御、情報及び機械の総合的な技術を重視した教育を行っている。

流通情報工学科では、「流通システムエンジニアの育成」である。具体的には、「流通分野の現象をひとつのシステムとして捉え、情報技術やシステム工学、経営学的手法を用いて解析し、新たなシステムを構築し、あるいは管理できる実践的な技術者」である。

3.2. 専攻科の特徴

本年度から専攻科が設置され、それは2専攻、すなわち、海事システム工学専攻と産業システム工学専攻から構成されている。現在、発足して間もないこともあり、この専攻科の充実発展については今後の進展が期待される。

海事システム工学専攻は、船舶運航技術に関連する工学等について、船舶に乗船する運航技術者、つまり、海技技術者の視点から学んでいる。本専攻では長期航海実習を含む海技技術者としての資格をもつ者が、さらに実践的で高度な海事技術を目指して、船舶運航技術等について深く体系的に教育する。さらに、それらの応用分野として、海陸空の国際間輸送サービスを統一化した「国際複合一貫輸送」等の新たな物流・輸送システムのうち、特に海事分野におけるシステムの創生能力の育成も目指す。

産業システム工学専攻は、「電子制御工学科」と「流通情報工学科」の基盤の上に立っている。近年のグローバル化に伴う国際競争力の維持や、消費の多様化に対応した生産のあり方、また環境問題という外部不経済や産業構造の劇的変化は技術者に求められる素養も大きく変えつつある。すなわち、今後「ものづくり」に関わる技術者は、常に現場思考的であることに加えて、「如何に良いものを作るか」はもとより、多様化された消費者の動向を的確に把握できる能力や、開発した製品や商品を効率良く生産し、消費者に届けるかを考慮できる能力が必要となる。しかも、工場や物流施設の立地場所の選定だけでなく、産業立地の基盤となる道路網・港湾等の物流インフラの整備（ロジスティック・システム）など社会システムのあり方においても重要な提言ができる人材の育成を目指す。